

TOMAMAE t@ste

苫前町勢要覧



苫前

HOKKAIDO
TOMAMAE



TOPICS

クリーン農業の推進

豊かな気候風土を生かした苫前町の農産物
「安心で安全」であることを宣言するために！

本町においては平成13年に「早出しメロン」がYES!cleanの認証を取得し、先駆的にクリーン農業への取り組みを行ってきました。その後、ミニトマトのYES!clean認証、平成19年には水稻をはじめとして、南瓜・生食用とうもろこしなどの野菜類についても認証登録され、一部の水稻、大豆などはさらに低農薬、低化学肥料の特別栽培を実施するなど産地全体としてクリーン農業への取り組みを拡大してきています。

今後も食の「安全・安心」を確立するため、また、周辺環境に対する保全対策にも配慮した「環境に配慮したクリーン農業」として次の事項を一層推進していきます。

- 「エコファーマー」、「北のクリーン農産物表示制度（YES!clean）」の取得・認証を推進していきます。
- 減化学合成農薬、減化学肥料農業を推進していきます。
- 全ての作物に対する生産履歴の作成を推進していきます。
- 作物に農薬を残留させない対策を推進していきます。



クリーンでおいしい自慢の農産物を安定供給
おいしく食べてもらう苫前の優食づくり

苫 前町の農業形態は、水稻を基幹に豆類、かぼちゃ、メロン、ミニトマト、とうもろこしをはじめとする畑作、乳用牛などの酪農も経営しています。豊かな大地と苫前特有の気象条件を生かしながら、環境に配慮した安全で安心な農畜産物の安定供給に努めています。

とりわけ、留萌管内でも高品質な米づくりでは、更なる良質・良食味米の苫前産米のブランド化を図り、競争力を高め、安定した稲作農業の確立が図られています。

酪農においては、家畜糞尿の適正処理や耕畜連携による地域循環システムの推進を図り、畜産環境の保全に向けた処理機械・施設の整備と共に、経営の合理化を進め、効率的でゆとりある農業経営を推進しています。

また、高付加価値の促進のために競争力のある地域ブランドの形成に向けた取り組みとして「クリーン農業」「循環型農業」を基本とした栽培技術の向上に努めるとともに、農業者の労働量の低減を図るため、スマート農業の推進に取り組み、生産体制の整備を進めています。



TOPICS

苫前地域 マリンビジョン計画

❖ ビジョンの特徴（理念）

本町のまちづくり推進計画の核である「シーフロントパークとままえ整備構想」と連携して、臨海部の苫前夕陽ヶ丘地区に都市との交流拠点を創出、地域産業が相互に協働・連携した都市との交流活動を展開し地域振興を図るとともに、水産業を核とした多くの訪問者との交流機会に恵まれた活力と賑わいのある環境の形成を目指しています。



● 基本構想

- ① 地域活性化構想（都市との交流による地域活力の向上）
- ② 漁業・養殖業振興構想（持続可能な漁業の推進）
- ③ 水産物流通・加工振興構想（食の安全・多様な出荷・販売体制）
- ④ 災害につよい地域づくり構想（防災力の向上）

● 地元小産業を核とした地域活性化の4つの視点

- ① 地元水産物の付加価値向上・販路拡大
- ② 漁業関連施設の再編による効率化
- ③ 水産物のストック機能向上
- ④ 再生可能エネルギーの活用



本 町の漁業は沿岸漁業を主としており、カレイ・タコ・カスベ・ウニ、沖合い漁業のエビ・ナマコ、海面養殖漁業のホタテ、さらには、イカ釣り外来船の受入れ基地となるなど様々な漁業がありますが、近年の異常気象や天候不順により不安定な状況が続いており、これらの貴重な資源を確保していくためにつくり育てる漁業としてナマコの種苗生産及び放流、ウニの種苗放流、ニシンやヒラメの幼魚の放流、ハタハタのふ化事業、サケの馴致飼育なども行っています。

また、本町では安全・安心な水産物を供給するため、雪氷熱エネルギーによる衛生管理型（定温）荷捌所の整備、製氷・冷凍・冷蔵施設の整備など水産物の鮮度保持・品質向上さらには環境に配慮した施設整備による水産物の付加価値向上に努めています。

苫前漁港は、屋根付岸壁の整備など留萌管内唯一の第三種漁港として国直轄による漁港整備が進んでおり、漁業の生産拡大と環境整備に向けた取り組みと合わせ、脱炭素化・資源管理による持続可能な漁業を推進していくとともに、「苫前地域マリンビジョン計画」による水産業を核とした訪問者との交流機会に恵まれた活力と賑わいのある環境の形成を目指しています。

**育てる漁業を軸に
付加価値の高い水産物づくりを推進**

やすらぎの時間
待っている

温泉
特産品
商工業

TOMAMAE
t@ste
おもてなし

ゆつくりのんびり旅情を満喫
「とままえ温泉ふわっと」

とままえ温泉ふわっとは白い屋根が特徴的な施設です。白い屋根はあの東京ドームと同じ膜構造の素材で、自然の光が差し込みます。
車椅子でも安心のバリアフリーの部屋を含む客室、レストラン、図書コーナー、多目的ホールや研修室・会議室もあり、目的に合わせた多彩な利用が可能です。
苫前町B&G海洋センターやとままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場が隣接しており、とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチもすぐ近くにあるため、お子様連れの家族も楽しむことができます。
さらに、湧出温度46度の塩分を含む塩化物強塩泉の天然温泉は、入浴後も保温効果がバツグン。身体の芯から温まると宿泊客や日帰り客などから大変好評をいただいています。



TOPICS

苫前の商工業

本町の商工業は、魅力ある商店街形成のため、店舗新築や改築への助成、設備投資に係る利子補給など事業者支援に取り組んでいます。また、住民の購買意欲を高める地域振興券の発行、更には地場産品を活用した特産品の苫前ブランドを高めるため、商品開発に係る費用助成を行うなど、創意工夫を図りながらまちの賑わい対策に取り組んでいます。



まちの情報やお土産も充実 「道の駅風Wとままえ」

とままえ温泉ふわっとは、道の駅「風W（ふわっと）とままえ」としてオロロンラインのちょうど中間にあたることから多くの方々に利用されています。
まちの情報を得ることはもちろん、売店では農水産物の加工品やお菓子などを買うことができます。夏期間には足湯コーナーも設置され、日本海に浮かぶ天売島・焼尻島や沈む夕陽を見ながら旅の疲れを癒すことができます。





風を感じて 希望の光を灯す

風力

風と共生する風力発電の先進地
国内初となった大規模集合型風力発電施設

オ ロンライン地域は、国内でも屈指の強風地帯です。有効な風資源を再生可能エネルギーである風力発電として活用し、環境に配慮したまちづくりを進めています。

町営風力発電施設建設を契機に、民間企業の参入により国内初となる大規模集合型風力発電施設が建設され、平成12年には42基で52、800kWの風力発電施設が運転を開始しました。

上平共同利用模範牧場内に立ち並ぶ風車の牧歌的風景は、景観と相まって町の新たな景勝地となり、訪れる人々が後を絶ちません。

その後20年が経過するにあたり、全国に先駆けてリブレース（建て替え）を行うなか、令和4年度には風車の大型化により基数は減ったものの14基で52、800kWの大型風車が運転を継続し、地域にクリーンなエネルギーを供給しています。

SDGsの目標達成に向けた
再生可能エネルギーへの取り組み

近年地球規模で拡大している自然災害や東日本大震災の影響に見られる電力不足等を考えると、地球環境に優しい再生可能エネルギーの推進と電力の安定供給は不可欠な時代となりました。

町では、平成10年から風力発電の取り組みを行うとともに、風資源を最大限活用できるように普及啓発を行ってきましたが、送電網が脆弱なため留萌管内では、風力発電の導入が進んでいません。

令和4年1月に本町はゼロカーボンシティ宣言を行いました。地域の再生可能エネルギーを最大限活用し、脱炭素に向けたまちづくりを目指します。



TOPICS

苫前を満喫

日本海の眺望を楽しめ、見晴らしも良い海沿いの高台にある「オートキャンプ場」は、電源・炊事ユニット付と全面芝生のサイトの2種からなり、センターハウスには、シャワー、ランドリー、トイレ、炊事場などが整備されています。

オートキャンプ場と隣接する「ホワイトビーチ」には、ログハウス風の喫茶や温水シャワーなどが設置されているほか、目の前には白い砂が敷き詰められており、シーズンになると海水浴を楽しむ人々で賑わっています。

遊んだあとは、隣接するとままえ温泉ふわっとで日帰り入浴を楽しむことができ、天売島・焼尻島、利尻富士など日本海の絶景を一望することができます。



個性あふれる 出会いが 待っている



観光
自然

風を感じる参加型の
イベントも大盛況

苫

前町は年間を通じて風の吹くまちで、その風は厄介者とされてきましたが、その風を逆手にとった風力発電のまちとして本町は全国的に知られることとなりました。そのような自然豊かな苫前町を広くPRするとともに、誰もが楽しめる機会の提供や、町内の特産品等を広くPRし、住民がイベントづくりに参加することで郷土愛を深められる「北海道風車まつり」を開催しています。

会場となる「とままえ夕陽ヶ丘未来港公園」で、ステージショーのほか、特産品の屋台が並びます。同時開催のエビ簗オーナーイベントでは、苫前町でエビ簗を営んでいる漁師さんが1回のエビ簗操業で漁獲した甘エビを当日会場に集まったオーナーで山分けする企画が大盛況となっています。



希望の未来を 待っている



協働で進めるまちづくり
町民目線で進める協働のまちづくり

苦 前町の持つ魅力や可能性を見つめ直し町民が結集し、「地域力」を高め、まちの底力を上げていくことが将来に不可欠です。そのため「苦前町まちづくり基本条例」の理念に基づき、個性的で魅力ある地域づくりを目指しながら、地域の公共的な課題を解決する「町民と行政との協働によるまちづくり」の推進により、町民が夢と希望を持って暮らすことができていくものです。

厳しい時代の中でも、苦前町の将来をしっかりと見据えて、開かれた町政の下で「いつまでも暮らしている苦前」に向けた取り組みを進めています。

町民と行政がしっかりと手を取り合いながら、輝く未来に向けた新しい苦前づくりを目指し、苦前は着実に歩み続けていきます。





いくつになっても
変わらない学びのころ

苦 前では、豊かな自然や風土に根ざした特色ある社会教育・生涯学習を積極的に推進し、住民が学習や文化、スポーツを気軽に親しみ、自らが学ぶ楽しさを感じること、生活に潤いと生きがいを持つことができるよう取り組んでいます。ゆとりや心の豊かさを求め多種多様化、高度化する住民のニーズに対応するため、公民館を中心とした各種社会教育施設の積極的な活用を図っています。

文化芸術活動の振興では、住民が芸術文化に触れる機会を提供、鑑賞事業の実施や住民による作品展や舞台発表、先人たちが築き上げた郷土の文化を継承や各種の文化財を活用した、まちに愛着と誇りを持つ風土の醸成を図っています。

スポーツの振興では、住民が健康で快適な生活を支えるため、誰もがスポーツに親しめる環境の整備として、地域で気軽に参加できる機会を創造しています。

子どもたちの成長を見守り支えます

苦 前の子育て支援は、町内2か所の認定こども園への支援により心身ともに健康でのびのびとした子どもの育成を図るとともに、両認定こども園内に地域子育て支援センターを設置し、乳児を持つ母親の憩いの場、育児不安の解消、子育て情報の発信基地として活用されています。

また、子どもをもつ親の負担軽減のため、認定こども園の利用料や高校生までの医療費の無償化を行うなど安心して暮らすことのできるまちづくりを進めています。

さらに、子どもが健康で心豊かに成長し、心身の発達を助長するためには、家庭が重要であることから、家庭教育力の向上を図るため、妊娠期から乳児期就学前児童の親と子を対象とした事業や発達段階に応じた体験学習を提供しています。

また、育児に関する不安解消のための相談体制や情報提供を行い、安心して子育てを楽しめる環境を整えています。

健やかな
成長を
待っている

子育て
社会教育





また、小中学生に1人1台配備したパソコン端末を活用しながら、情報活用能力や情報リテラシーを向上させるとともに、外国語教育では、発達段階に応じたコミュニケーションや実践的な英語力を身につけさせ、広い舞台で活躍できる人材の育成に努めています。

北海道苫前商業高等学校に対しても、「とままえ学」として地域の歴史や伝統、産業などの学びの場を提供するほか、生徒の経済的負担を軽減するための各種助成、安心して快適に生活できる寄宿舎の運営など、多くの支援を行っています。

一人ひとりの個性を活かした
学校教育を推進します

次 代を担う子どもたちのいきいきとした明るい笑顔は、まちの活力や希望につながることから、苫前町ではその健やかな成長を支えるため、学校教育の充実を進めています。

まちの教育目標の実現に向け、学校と家庭、地域が連携して、それぞれの教育機能を活かし特色ある教育を実践しています。

子どもたち一人ひとりの個性を尊重しながら、確かな学力の向上を目指すとともに、豊かな人間性を育み、たくましく生きるための体力向上に努めています。

特に地域と学校が協働した活動を積極的に進めており、子どもの成長のために多くの住民が学校運営に参画しており、子どもたちが様々な体験から「ふるさととままえ」を学ぶことを通して、地域を担う人づくりを目指しています。





苦前町は苦前地区と古丹別地区に2ヶ所の医療機関と町立歯科診療所が2ヶ所あり、公的医療機関であるJJA北海道厚生連苦前厚生クリニックは今後とも北海道厚生連との協力体制により、地域住民が安心して医療を受けることができるよう、北海道立羽幌病院などの中核病院との連携も強化しながら支援するとともに、苦前厚生クリニック2階部分について、地域住民が積極的に利用できる取り組みを進めています。健康づくり対策は、年々増加する生活習慣病や各種疾病構造の変化に対応するため各種健康診査の実施及び受診勧奨のほか、各種教室活動や相談事業をととして自身の健康管理ができるよう取り組みを進めています。

社 会福祉の充実と健康づくりの推進を図るためには、行政と地域住民とが自らの役割分担を明確にし、それぞれの能力が存分に発揮される環境を整え、それぞれが地域課題に積極的に関与することが必要です。

苦前町の高齢化率は依然として増加傾向を示していますが、地域包括支援センターを中心に高齢者の参加を得ながら関係機関が一丸となり、健康づくり、介護予防、生きがいづくりの事業を進めています。

また、介護保険制度の運営は、介護保険サービスの利用動向を十分に踏まえつつ、必要な見直しを行い、高齢者のニーズに即した介護基盤の整備に努めるとともに、制度の普及啓発にも継続して取り組めます。

保健、医療、福祉の
関係機関が連携して
安心の暮らしをサポート

安心の
暮らしが
待っている

医療
福祉

TOMAMAE
t@ste
LIFE6



2

問診



町章

町名の「トママエ」を端的に図案化したもので、全体の円形は、平和と円満を表し、下部の「エ」は、長年の開拓者精神の伝統を土台とし、かつ常に創造的、開発的であることを意味し、もって伝統を基礎としながら円満で限りない成長発展を続ける苫前町の未来を象徴したものである。



町花／エソエンゴサク



町木／ナナカマド

苫前町町民憲章

1. 心と体をきたえ、元気ではたらき、活気あふれる豊かなまちをつくります。
1. 教養をたかめ、視野を広げて、北方の風土に根ざした、心豊かなうるおいのあるまちをつくります。
1. きまりを守り、たがいに助け合って、明るく住みよいまちをつくります。
1. 未来をつくる若い芽を育て、希望にみちた力みなぎるまちをつくります。
1. 自然を愛し、環境をととのえ、きれいなまちをつくります。

T O M A M A E

t@ste

2022 苫前町勢要覧

発行……苫前町役場

発行日……2022年3月

印刷……(株)総北海